

まちの皆様インタビュー！

「国内最大級の木造庁舎」として知られる宮代町役場庁舎は、見学者も多く訪れる建物です。この設計は、当時宮代町内で設計事務所を専業とていた一級建築事務所6社で結成された「みやしろ設計連共同企業体」が行いました。今回は、そのメンバーの一人として設計にも関わられた、宮代町百間で設計事務所を営む深井満さんにお話を伺いました。

【自然と親しんで育った子ども時代】

深井さんは宮代町百間で生まれ育ち、今も百間にお住まいです。現在このあたりは住宅が建ち並んでいますが、深井さんが子どもの頃はほとんど家がなく、通っていた東小学校と自宅の間には畑が続いていたそうです。「『カランカラン』という始業の鐘の音を聞いて慌てて畑を突っ切って走っていった」というのかな環境の中、家の周辺の田んぼの用水路で水遊びをしたり、ザリガニを取ったりと、自然を満喫していたそうです。また当時は学区の境が緩やかで、深井さんは東小学校を卒業後、隣の杉戸中学校へ進学しました。そのため、「地元の付き合いは中学校で作られるものだから、宮代町には知り合いがいなかったんだよ」とお話されていました。同じ町内にある百間中学校出身の同級生と通学の電車内で一緒になっても話す機会もなく、大人になって再会したのを機に付き合いが始まった、というエピソードもあるそうです。

【祭りを通じて地域でつながる】

深井さんが30代のころ、杉戸駅（現在の東武動物公園駅）東口駅前にて、杉戸で神輿があがった際の接待をしていましたが、そのうち「自分たちでも神輿を担ぎたい」と神輿を借りて来ることもあったそうです。かくいう深井さんも神輿の会に入って春日部に担ぎに行ったりしていました。そんな折、「東口駅前の神輿を代わりにやってくれないか？」との相談を受けます。それまで「神輿が好き」という人が会を作っても、本人ができなくなるとやめてしまう、ということを見ていたため、「町内会全体でやろう」と仲間にも声をかけ、桜木・弁天・切戸・川島1・川島2の地域で「東口夏祭り会」を結成し、毎年神輿をあげてきました。しかしながらコロナ禍で活動が止まった時期もあったそうです。現在は宮代町民まつりなど、宮代町内の行事の際にお神輿をあげています。

【関わることで愛着がわく】

宮代の町に育ち、その変化を見続けてきた深井さんから見た宮代町は「いい点、悪い点様々あるが、プラスが大きい、全体としていいまち」とのこと。そして、こんな話をしてくださりました。

かつて「町内（まちうち）のことは自分らでやる」という「仕事の地産地消」の考え方が強かったそうです。こうした考えのもと、小さな仕事でも町内（まちうち）のこ

このコーナーでは、宮代町に在住・在勤・在学など宮代町に関わる方々にお話を伺っています。



「子どもと祭りが好き！」という深井さん。ご自身の経営する設計事務所の建物の一部を東小学校の学童保育に開放し、地域の子どもの成長を見守っています。

とに関わっていくことを通じて「自分の大切なものだから、もっと大事にしていきたい」と愛着が湧き、仕事も丁寧になっていったということです。このお話を聞き、理屈ではなく実際に関わることの大切さを改めて考えさせられました。

【温かく見守る】

深井さんのお話を通して、常に全体を俯瞰する視野の広さと、人が適材適所に関われるように配慮しつつ、温かく見守る懐の深さを感じました。今夏開催される宮代町民まつりで実行委員長を務められる深井さん。「子どもたちが楽しめる祭りになるといい」という言葉を聞き、子どもたちの姿を微笑みながら見つめる深井さんを想像してしまいました。

手料理をお孫さんが喜んで食べてくれるのが何よりの喜びという深井さん。材料となる野菜も自家製です。取材時はちょうど春の畑仕事の時期。事務所の窓際には野菜の苗が育っていました。

なきじんせん 今帰仁村だより



今帰仁村には、世界遺産の今帰仁城跡や古宇利島など、様々な観光スポットがあります。こうした魅力を内外に発信しているのが今帰仁村観光協会です。この観光協会では、地域の魅力として「人」に着目する取り組みを行っています。

今帰仁村では、2020年に村の観光について考える座談会を開き、様々な職業の村出身者・移住者から多様な意見を集めまし

た。その際に今帰仁村の魅力として「歴史、自然、食、人」のキーワードが出ました。今帰仁村観光協会では、この中の「人」に着目し、「人から魅せる今帰仁村」をテーマに12編のPR動画を制作しました。「今帰仁村のイチバンは人だ。」というタイトルのこの動画では、この村で暮らす様々な背景や職業の方が紹介されています。また、インタビュー動画では、それぞれの飾らない日常が語られていますが、その言葉の端々から優しさや自身の暮らす地域への愛情が伝わってきます。今帰仁村を訪れた人々が「懐かしい感じがする」「温かくてまた帰ってきたい場所」といった表現をするのをよく耳にしますが、こうした方々の魅力や地元への愛情ゆえなのでしょう。

このコーナーでは進修館と交流のある沖縄県今帰仁村との交流の様子やさまざまな情報をお届けします。

今帰仁村観光協会は、自然や人などゆたかな地域資源を活かし、「今帰仁を世界中の人に知ってもらい、好きになってもらう事」に取り組んでいるのです。



今帰仁村の魅力は観光協会公式Youtubeチャンネルで発信されています！

季節のリズムに合わせた養生ライフ♪

6月の養生

二十四節気では、5月20日～6月4日小満（しょうまん）、つづいて6月5日～芒種（ぼうしゅ）、6月21日～夏至（げし）と続きます。

芒種は、稲や麦など穀物の種をまく時期といわれており、梅雨も近づき湿りがちな時期。夏至は、ご存じのとおり一年でいちばん日が長く、夜がみじかくなる頃。暑さは日に日に増していきます。

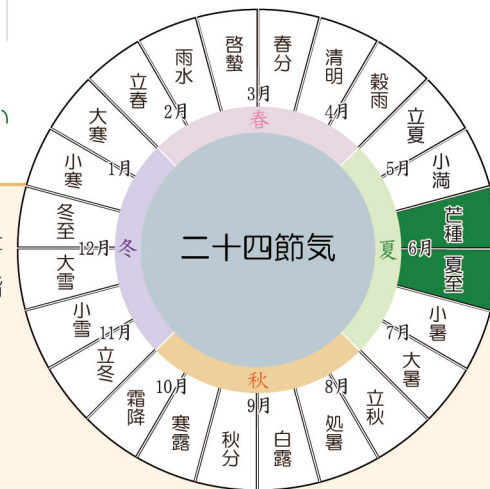
東洋医学では、夏は五臓の「心」*に属し、

* 東洋医学の基となる五行学説では「春=肝・夏=心・長夏=脾・秋=肺・冬=腎」のように、それぞれの臓器が属する季節（五季）があり、該当する臓器にトラブルが発生しやすい傾向があるとされています。

心の機能が活発になります。「心」は血液を全身に循環させる作用や精神・意識・思考に関係しており、適度に働くと活動的になりますが、活発になりすぎるとバランスを崩し不調（多汗・口渇き・精神・情緒の不安定・不眠・イライラ…etc）につながるといわれています。また、この時期は梅雨もからんでくるので湿度が高くなり、五臓の「脾」にも影響を与えます。東洋医学における「脾」は飲食物を消化吸収し、そ

の栄養物を全身に運んだり、消化管内の水分子代謝などにも関係しているんだとか。そのため「脾」の不調は、倦怠感・よだれの過多や過少・食欲不振・胃もたれ・お腹の冷え・下痢…etcとして現れるようです。

身体を冷やし過ぎず、程よく汗をかくりの適度な運動。そして、夏の臓器「心」を補う苦味のある食物を意識してみてくださいか？



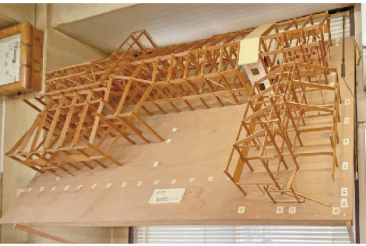
〈養生ライフ〉

この時期の養生は、「夜遅く寝ることがあっても、朝は早く起き、暑さを嫌がらず、物事に怒らずに気持ちよくすごすべき」と古典に書かれているようです。また、冷たい物や脂っこい物・甘過ぎる物を控え、胃腸への負担の少ない食事を心がけましょう。

- ・体内の余分な水分を食材や適度な運動では排出
- ・胃腸の働きを高める食材を摂る
- ・生もの控え、冷たい飲み物は控えめに

〈おすすめ食材〉

ストレスの緩和、収斂作用、消化の補助、発汗を抑える（酸味）	梅干し、柑橘類、トマト、キウイフルーツ、酢
体の余分な水分をとり、熱を冷ます（苦味）	ゴーヤ（苦瓜）、セロリ、緑茶、山菜類、アロエ
胃腸の働きを助ける、滋養作用、弛緩作用（甘味）	イモ類・かぼちゃ・そば・ナス・きゅうり・冬瓜・豆腐・豚肉
血行を促進、発汗作用（辛味）	玉ねぎ・ネギ・しそ・しょうが・ミョウガ・胡椒



深井さんは「みやしろ設計連共同企業体」のメンバーとして宮代町役場庁舎や進修館芝生広場の設計に関わっています。事務所には当時つくられた役場庁舎の模型が飾られていました。



手料理をお孫さんが喜んで食べてくれるのが何よりの喜びという深井さん。材料となる野菜も自家製です。取材時はちょうど春の畑仕事の時期。事務所の窓際には野菜の苗が育っていました。

お話を伺った深井満さんが実行委員長を務めます！

第41回 宮代町民まつり

開催日：2024年8月24日（土）25日（日）
 場所：コミュニティセンター進修館周辺
 主催：宮代町民まつり実行委員会

宮代町の夏を締めくくるコミュニティ祭り、宮代町民まつりが今年も熱く開催されます！実行委員のみなさんが「宮代の夏を楽しんでもらいたい」という気持ちで準備をすすめており、子どもたちが楽しめるクラフトや緑日、ゲームなどのほか、ロビーコンサートやバザーなど大人も楽しめるイベントが目白押しです。また恒例の流し踊りや、町内各所から集まった神輿・山車の巡行もおこなわれます。

宮代町民まつり
実行委員募集中！

宮代町民まつりの実行委員会では、イベントや運営にご協力いただける実行委員を随時募集しています。詳しくは実行委員会事務局まで。

宮代町民まつり実行委員会事務局

0480-34-1111

宮代町役場
地域振興担当内